

鎌ヶ谷市総合基本計画審議会 第1回会議 会議録

日 時	平成31年3月20日（水）15時～16時30分
場 所	鎌ヶ谷市役所6階 第1・2委員会室
出席委員	宮脇淳委員、北原理雄委員、菅野勝利委員、井手勝則委員、山崎明委員、 徳田訓康委員、篠田繁委員、御代川泰久委員、竹内久子委員、 野田正治委員、奥村さかえ委員、榎本美紅委員、吉田誠委員、 熊谷貴宏委員、山中広和委員
欠席委員	小澤誠一委員、猪野茂樹委員
市出席者	清水市長、皆川総務企画部長、高岡市民生活部長、望月健康福祉部長、 谷口都市建設部長、山崎生涯学習部長、鈴木消防本部長、 武田総務企画部参事
事務局 オブザーバー	小笠原企画財政課長、小暮主任主事、近江主任主事 株式会社富士通総研（若生、鬼澤）
記 録	小暮
傍 聴 者	1名

（1）委嘱状交付

市長から各委員に委嘱状を交付した。

続いて市長からの挨拶、各委員及び事務局の自己紹介を行った。

（2）会長、副会長の選出について

資料3「鎌ヶ谷市総合基本計画の策定に関する条例」第9条第1項の規定により、委員互選で会長には宮脇委員、副会長には菅野委員と決定した。

その後、宮脇会長と菅野副会長から一言挨拶があった。

（3）会議の公開及び会議録署名人の選出について

資料4「鎌ヶ谷市における審議会等の会議の公開に関する指針」第3に基づき、審議会は公開と決定した。

また、会議録署名人は、資料2の審議会委員名簿の中から、会長及び副会長を除いた順番として、北原委員及び井手委員に決定した。

⇒傍聴人1名の入室あり。

（4）鎌ヶ谷市次期総合基本計画策定方針の説明について

（事務局）

～資料5「鎌ヶ谷市次期総合基本計画策定方針」に基づき、概要を説明～

(宮協会長)

本策定方針について、事前に不明な点を市へ提出することとなっており、その解答を当日配布資料②にまとめている。

本策定方針に関する質問は、NO.1～NO.4であり、事務局から全体の説明をお願いします。

(事務局)

～当日配布資料②に基づき、説明～

(宮協会長)

事務局からの説明を聞いて、事前に質問した委員から何か意見等はあるか。

(熊谷委員)

事前に質問した意図を説明する。

1点目のNO.1は、これまで総合基本計画に基づき取り組んできた中で、現状よりも悪くなった指標を確認することで、何が足りなかったかを確認することが重要と考え、質問した。

2点目のNO.3は、鎌ヶ谷市の梨農家が減っているが、この点に関し、梨を売りにしているのに、梨農園が減少してしまっただけでは元も子もないので、これについて確認したく、質問した。

3点目のNO.4は、市が活性化していくために企業誘致を進めているとのことであるが、現在は日本ハムファイターズなど特定の企業に偏っている現状である。

企業が近隣市でなく鎌ヶ谷市を選択する理由は何があるのか、企業に対し何か積極的な取組を実施しているのか疑問に思い、質問した。

(宮協会長)

今ご質問いただいた点は、今後審議会の中でも議論していく必要があると考える。

その中で、農地が減少しているとの質問について、どのくらい減少しているか把握しているか。もし分からなければ、後ほど教えていただきたい。

(篠田委員)

生産緑地について、対市街化区域面積比を見ると、比較対象都市の中で鎌ヶ谷市が一番多い。指定後30年となる平成34年の期限が来れば、市に対していつでも買取り申出が可能となるが、これまで市は1件も買取りをしていない。

鎌ヶ谷市は緑あふれるまちと思っていたが、公園や緑地は、12市の中で一番少ない。

本日の資料や説明を聞いて、10年先送るということで認識をしたが、その間にきちんとした施策に取り組んでいく必要があると思っているので、今後検討していただきたい。

(宮協会長)

市長の挨拶でも、財政と夢を両立していくとの話があったので、今のご意見についても議論していく必要がある。

山中委員はいかがか。

(山中委員)

人口構成を若返らせる必要があると感じている。

日本全体で少子高齢化が進んでおり、難しい課題であるが、近隣市を見ると、流山市では「母になるなら流山市」として呼びかけ、成功している市もある。

鎌ケ谷市も魅力ある施策を実施していると思うが、特に子育て世代を呼び込む施策が重要である。

鎌ケ谷市は新鎌ケ谷が出来て、アクセスも良く、今後も発展していくと思う。

子育てについても、色々な施策を実施した実績もあるが、市外の人へPR出来ていないと感じているので、何とか出来ればと考えている。

(宮脇会長)

今ご意見あった点について、今後検討出来ればと思う。

ほかに策定方針について、何かご意見はあるか。無ければ次の議題に移ることとしたい。

(5) 鎌ケ谷市総合基本計画基礎調査報告書の説明について

(事務局)

～資料6「鎌ケ谷市総合基本計画基礎調査報告書」に基づき、概要を説明～

(宮脇会長)

本基礎調査報告書について、先程と同様に事前に不明な点を市へ提出することになっており、その回答を当日配布資料②にまとめている。質問は、NO.5～NO.9であるが、これについて事務局から全体の説明をお願いします。

(事務局)

～当日配布資料②に基づき、回答～

(宮脇会長)

事務局からの説明を聞いて、事前に質問した委員から何か意見等はあるか。

(熊谷委員)

NO.5は、病院の充実度についての資料を探していたが、細かいデータがなかったので、質問した。

私は以前、愛知県名古屋市に住んでいたが、子どもが熱を出した時、よく病院に連れて行ったことがある。

鎌ケ谷市には1年半前に引っ越してきたが、小児科がとても少なく、総合病院は金曜日だけしか開いていないため、ほかを探すしかない状況である。

このことは、小さい子どもがいる家庭では深刻な問題であり、今後人口を増やしていくためには、充実していく必要があると感じた。

NO.9の合併については、企業でもあることだが、先を考えず、今のことだけ考えて、不要なものを作ってしまうことがよくある。

そのため、市として10年、20年後に合併する可能性があるのであれば、不必要なものは作らない方が良くと思ったので、確認の意味で質問した。

現在、税務署は松戸市、職業紹介所は船橋市にあることから、外注できるところは外注して、効率よく取り組んでいければ良いと考えている。

(山中委員)

NO.7については、新鎌ヶ谷はポテンシャルがあると思うので、今後も企業や商業施設の誘致などに力を入れて、取り組んで欲しい。

また、新鎌ヶ谷駅は、成田空港にも直結しており、アクセスも良い。外国人への対応についても、今後国の政策と整合を図り、市の魅力向上に取り組んでいただきたい。

NO.8のIT化については、国や県のシステムとの整合性を図る必要があるが、通信環境の整備を含め、積極的に対応していただきたい。鎌ヶ谷市の活力向上、市民の利便性向上、歳出削減につながる行政システム等、IT化促進は避けては通れないと考える。

(篠田委員)

今小児科の話があったが、鎌ヶ谷総合病院には産婦人科がない。鎌ヶ谷市が子育て支援を進めていくのであれば、産婦人科を増やすなど、子どもを安心して産める場所を作っていく必要がある。

人口動態を見ても、鎌ヶ谷市は死亡数が多く、自然動態が減少しているが、社会動態は、数年前までは減っていたが、近年は増えている。

近隣市を見てみると、柏市や流山市は若い人など社会動態が増加しており、大学などを誘致している。

鎌ヶ谷市を魅力あるまちにしていくためには、どうすれば良いか分析をして、検討していく必要があると考える。

(熊谷委員)

鎌ヶ谷市に引っ越してきて痛感していることが、大きく2点ある。

1点目は、先程話した子どもの病院の問題について、2点目は、学校のレベルの問題についてである。

小学校の授業やテストなど、レベルが下がったとの話があり、教育について意識が高い親からすると問題である。近隣の船橋市や松戸市の方が良い教育が受けられることとなれば、鎌ヶ谷市に引っ越すのを考えてしまうのではないかと考える。

(徳田委員)

財政状況など乖離が生じないような施策を進めていく必要がある。

また、梨の耕地面積が減少していく中で、井手委員の自己紹介時に話しがあったように、市のブランド化やオンリーワンの商品を作るプロジェクトチームがあると良い。

(井手委員)

新鎌ヶ谷駅には毎日97,000人の人が乗り降りしているが、これらの人をどう集めるのか考えていくことが大事である。

鎌ヶ谷市の市税は約130億あるが、この限られた予算をどこに配分していくのか

が重要であり、それが決まらなければ、いくら夢を語っても何も出来ない。

例えば新鎌ヶ谷駅西側の市街化調整区域に公園や池を整備するのか、緑を残していくのか。

また、梨農家についても、世代交代の時期であり、市の梨の1個あたりの単価を上げるためには、マーケティングをして、どうブランディングしていくのか考えていくことが必要である。

ほかの委員が話した課題については、行政も把握しているかと思うが、すぐに出来るものと、そうでないものがある。

新鎌ヶ谷駅周辺の整備についても、昭和44年の計画から始まり、よく出来たと思う。鎌ヶ谷市を今後も人が羨むようなまちにするためにも、ここにいる委員一人ひとりの知恵を出し合って、活発なまちにしていければ良いと考える。

(宮協会長)

今、教育や産業など色々な委員から話があったが、今後の進め方として、まずは個別の問題でなく、市がどの方向に向かって進んでいくのかを定める基本構想を策定する必要がある。その後、この基本構想に基づき、課題に対してどう取り組んでいくのかを定めるのが基本計画である。

この羅針盤となる基本構想は、議会の議決を受けるものであり、市や議員で市の方向性を明確にするものである。

(6) 今後の進め方について

(宮協会長)

基本構想及び基本計画を策定するための今後の進め方について、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

～資料5「鎌ヶ谷市次期総合基本計画策定方針」の24ページの主なスケジュールを基に説明～

(宮協委員)

次の審議会の開催は、具体的にいつ頃になるのか。

(事務局)

基本構想は市全体の理念であり、これから基本構想案を庁内で検討した後に審議会に諮ることを考えている。予定では6月頃開催することを考えている。

(宮協会長)

日程については、日にちが確定次第、早めに連絡をお願いしたい。

(篠田委員)

大枠について決めていくことは分かったが、個々の施策については、6つの部門に分かれて検討していくと書いてある。それぞれに精通している代表の方々がいるので、

その人達を中心に、具体的なことを検討していくことが重要である。

先程、市の教育レベルが低いとの話があったが、基礎調査報告書を見ると、鎌ヶ谷市の小学校の先生一人あたりの児童数は19人であり、良い方なのにレベルが低いと言われてしまっている。また、不登校の数は100人おり、困っている家庭が多い。

これらの状況を踏まえ、教育に限らず、色々な方の知恵を出し合って、まとめていくことが、必要であると考えます。

(宮脇会長)

先程お話があったように、全てのことを実施するわけにはいかないもので、まずは、市の方向性として基本構想を議論していく中で、並行して教育問題などの個々の取組も議論していければと思う。

(野田委員)

教育など直近の問題はあるが、50年先のことを考え、どうすべきか議論していった方が良い。

(宮脇会長)

私達は、政策は現場に宿るとよく言っているが、これから議論いただく総合基本計画は、期間が長いものとなるので、きちんとした方向性を見極めて、議論していく必要がある。

(7) その他

(宮脇会長)

事務局又は委員から何かあるか。

～ 意見なし ～

(宮脇会長)

意見が無ければ、本日出た意見などを踏まえ、事務局と相談して、今後進めていきたいと思う。

それでは本日の会議はこれで終了とする。

以上で会議は終了した。

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成31年4月19日

氏名

北原 理雄

氏名

井出 勝則
